

App Bridge Ver. 1.18.0 のバージョンアップ内容を以下に示します。

利用者環境に導入いただいているモジュール（Agent など）は、バージョンアップ後もそのままご利用いただけます。リリース機能をご利用いただく際には、モジュールの入れ替えが必要となる場合があります。詳しくは後述の「変更区分」をご参照下さい。

## 1. 対象ブラウザの変更【C-1】

対象ブラウザを以下の最新バージョンに変更します。

- Google Chrome
- Firefox
- Microsoft Edge（Chromium 版のみに対応、IE モードを除く）

## 2. App Bridge Monitor

### 2.1 センタ【C-1】

#	対象	内容
1	通知メッセージ書き込み抑止	イベントログの抑止単位を「イベントログ名」から「イベントログ名+ソース+イベント ID」に変更しました
2	電話発信履歴照会	電話番号を表示しました
3	Slack 連携	ボットトークン（xoxb）に対応しました

### 2.2 Windows Agent【M-W1】

#	対象	内容
1	SQL Server 監視の拡張	Amazon RDS の SQL Server に対応しました
2	イベントログ監視	同一イベントログの通知抑止が発生した際、メッセージ（0020-020A）を通知する機能を追加しました
3		同一イベントログの通知抑止から指定したソース、イベント ID を除外する機能を追加しました

### 2.3 Linux Agent【M-L1】

#	対象	内容
1	サポート JRE	内部処理の変更に伴い、サポート JRE を Java8 以降に変更しました
2	Install コマンド	ノード情報変更時の動作を改善しました

### 2.4 その他【M-W3】

#	対象	内容
1	通知連携サービス	外部プログラム連携の代替文字列を拡張しました

### 3. App Bridge Kicker

#### 3.1 センタ【C-1】

#	対象	内容
1	Azure 認証	Azure 向けパブリックモジュール追加に伴い、Azure 認証登録機能を追加しました
2	タスク定義	タスクインスタンス生成、スケジュール情報のステップ追加情報にステップコード仮定機能を追加しました

#### 3.2 Linux Agent【K-L1】

#	対象	内容
1	新設	Linux Agent を新設しました

※ App Bridge Kicker Linux Agent の公開は、2021 年 1 月中旬を予定しています

### 4. App Bridge Transporter

#### 4.1 Windows Agent【T-W1】【T-W2】

#	対象	内容
1	アップロードサービス	通信障害時にイベントログが繰返し出力される問題に対応しました
2	ダウンロードサービス	通信障害時にイベントログが繰返し出力される問題に対応しました

### 5. 変更区分

お客様がリリース機能を利用するためには、変更区分で示される作業が必要となります。

区分	バージョンアップ機能を利用するために必要な作業	備考
C-1	なし	センタ変更のみで利用可
M-W1	App Bridge Monitor Windows Agent のアップデートが必要	
M-W2	App Bridge Monitor API コマンドのアップデートが必要	
M-W3	App Bridge Monitor 連携サービスのアップデートが必要	
M-L1	App Bridge Monitor Linux Agent のアップデートが必要	
K-W1	App Bridge Kicker Windows Agent のアップデートが必要	
K-W2	App Bridge Kicker Developer Tools のアップデートが必要	
K-L1	App Bridge Kicker Linux Agent のアップデートが必要	
T-W1	App Bridge Transporter Upload Agent のアップデートが必要	
T-W2	App Bridge Transporter Download Agent のアップデートが必要	

以上